

# 環境・安全レポート 2014



株式会社 **ADEKA**

三重工場

## 目次

ごあいさつ	2 頁
1. 三重工場の概要	3 頁
2. 環境保全活動	
(1) 環境方針	4 頁
(2) 環境行動目標	4 頁
3. 環境マネジメントシステムの状況	
(1) 環境管理推進組織	4 頁
(2) 環境教育      (3) 環境会計	5 頁
(4) グリーン購入	5・6 頁
4. 環境パフォーマンス	
(1) 生産量の推移	7 頁
(2) 環境負荷のインプットの低減	7 頁
(3) 環境負荷のアウトプットの低減	8 頁
(4) 環境事故の発生状況	9 頁
5. 安全衛生活動	10 頁
(1) 労働安全衛生方針	10 頁
(2) 労働安全衛生活動目標	10 頁
(3) 安全衛生教育	11 頁
(4) 安全衛生活動の成果	11・12 頁
(5) 保安活動	12 頁
6. 物流環境・安全活動	
7. 社会貢献活動	12・13 頁
(1) 地域とのコミュニケーション	13 頁
(2) 清掃活動	15 頁
アンケート	

## ごあいさつ

ADEKA グループは、「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」、「世界とともに生きる」という経営理念の基、「法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動」、「安全で高品質な商品・サービスの提供」、「環境の保全」、「社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動」、「適正かつ公正な情報開示」、「働きやすい職場環境」、「反社会的勢力の排除」、「健全で持続的な発展と社会への還元」の8つを行動憲章としています。このCSRと経済発展とを両立させるという命題に対して、ADEKA グループ一丸となって取り組んでおります。

三重工場は1965年の開設以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料等を製造してきましたが、従来から「環境保全は工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO14001：環境マネジメントシステム」の認証登録を1996年12月に受け、2005年には2004年度版への移行を行いました。また、安全対策も環境保全同様に重要との認識の下に、「OHSAS18001：労働安全衛生マネジメントシステム」の適合証明を2000年9月に受け、2008年8月には2007年度版への移行を行いました。

当社の需要家、株主、地域住民の方々、また工場で働く従業員にとって、安全・安心であり且つ信頼される工場であり続けられるよう、今後とも工場労使一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく所存です。

本報告書は、2013年度の三重工場の安全・環境に対する取組みとその成果を集大成したものです。2013年度は、環境面では①公害・苦情の発生ゼロ、②省エネルギーの推進、③廃棄物削減、④グリーン調達の推進、⑤ゼロエミッションの推進を目標として掲げ、取り組んでまいりました。安全面では、労働災害と通勤途上災害を0件とすること（ゼロ災の達成）を目標として掲げ、安全活動を展開してまいりました。その他、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、その発生が危惧される南海トラフ巨大地震に備えたBCP【事業継続計画】についても、ブラッシュアップを進め、災害に強い工場造りを目指しています。

2014年度は2013年度の結果とその反省を踏まえた上で、更に継続的な改善・改革に取り組んでいます。

三重工場は、地域に根ざした企業として、行政や地域社会とのパートナーシップの強化にさらに努め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けて努力をしていきます。

三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解頂くと共に、皆様からのご意見・ご指導をいただければ幸いです。

2014年9月

株式会社   
三重工場長

山田芳雄

# 1. 三重工場の概要

## 【沿革・事業内容・工場運営】

三重工場は樹脂添加剤、情報化学品材料等の製造を行っています。三重工場は、樹脂添加剤の一つである塩化ビニル用安定剤製造を目的とし、1965年にアデカ・アーガス化学株式会社 三重工場として開設しました。その後、1990年に旭電化工業株式会社と合併し、旭電化工業株式会社 三重工場となりました。旭電化工業株式会社は、2006年5月1日に社名を株式会社 ADEKA と変更しました。そして、2015年に三重工場は創業 50周年を迎えます。

三重工場は三重県桑名市郊外の多度山麓の田園地帯にあり、現在では塩化ビニル用安定剤、塩化ビニル・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤、光安定剤などの樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、油剤・その他分野の添加剤、液晶パネル用画像材料などの情報化学関係の材料を製造するファインケミカルの工場に発展いたしました。

三重工場は 5S 活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の基礎の上に環境、労働安全衛生、品質、設備保全の 4 つの安全を目標に掲げ、地域住民、顧客、働く人たちに安全・安心を与える、磐石な体制で運営を行っています。

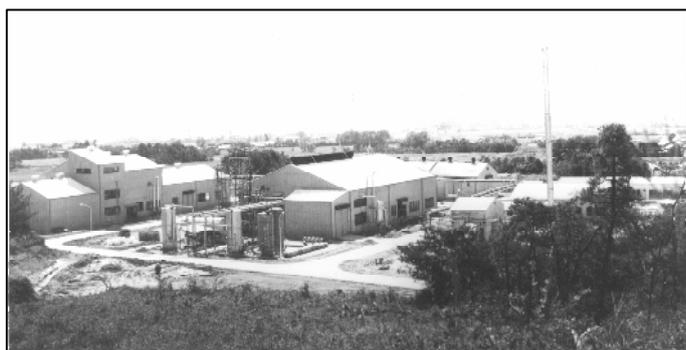
環境については、当工場は緑豊かな田園地帯に立地することから、工場開設時より環境に配慮した活動を進めてきました。より一層環境に優しい工場を目指し、1996年12月に国際規格の環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、マネジメントシステムに基づいた改善活動を展開しています。

労働安全衛生管理は従来の活動をマネジメントシステムにまとめ、BS8800 を基本とした労働安全衛生マネジメントシステム、OHSMS の適合証明を 2000年9月に一般財団法人日本品質保証機構 (JQA) より受け活動してきましたが、同機構において 2001年9月に OHSAS18001 への移行を行いました。

品質管理についても 1993年5月に国際品質管理システム ISO9002 を認証取得しました。規格改正により、2002年7月に ISO9001 (2000年度版)、2009年7月に ISO9001 (2008年度版) への移行を行い、これにより管理しています。

一方、設備管理では、TPM 活動に取り組み 1989年 TPM 優秀賞第Ⅱ類、その後 1995年に TPM 優秀賞第Ⅰ類を受賞。主要設備については、PM トータルシステムに基づいた設備管理を行っています。

また、2011年度からは MCFS - 5G (MCFS=Mie Continuous Five S) と称し、5S を基本とした ① 事故・災害を発生させない現場づくり、② 公害を発生させない現場づくり、③ 異物・品質不良を発生させない現場づくり、④ 工程停止を発生させない現場づくり、⑤ 工場貢献利益を拡大できる現場づくりを目指し、安心して働ける職場造りを目指した独自の活動を進めています。更に、今日では事業のグローバル化と共に、海外 7 カ国に展開する関連会社や工場の技術指導・援助等の技術センターとして重要な役割も果たしています。



1965年 工場開設時の全景

## 【工場概要】

開設	1965年(昭和40年)10月
敷地	118,331 m <sup>2</sup> (約 35,800 坪)
従業員	180名(再雇用9名、嘱託6名を含む) 2014年9月1日現在
常駐協力会社:	113名 (ADEKA 総合設備(株)、(株)ケイエス、ADEKA 物流(株)、三重加工サービス(株))
組織	2部10課
勤務形態	日勤、2班2交代、4班3交代

## 2. 環境保全活動

### (1) 環境方針

三重工場では下記の環境方針を策定し、方針に従って活動しています。

<h3>三重工場環境方針</h3>
<p>&lt;理念&gt; (株) ADEKA 三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、生物多様性に配慮し、環境と調和した活動を推進し、環境にやさしい工場作りを目指します。</p>
<p>&lt;方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 法規制の遵守と継続的改善 環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で環境保全の継続的改善に努めます。</li><li>○ 環境負荷の低減 工場活動が環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し廃棄物・エネルギー等の環境負荷の低減に努めます。</li><li>○ 生物多様性への取り組み 「生物多様性」に配慮した取り組みを推進し、社会に対する企業の役割を果たしていきます。</li><li>○ 環境保全意識の高揚 環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。</li><li>○ 対外連携の促進 地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。</li></ul>
<p>2014年4月1日 株式会社 ADEKA 三重工場長 山田芳雄</p>

### (2) 環境行動目標

2013年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

<h3>目標</h3>	
1. 環境保全	
① 工程別管理の強化による省エネ活動の推進と効果の明確化	
② CO <sub>2</sub> 排出量削減活動の推進と2020年度までの実行計画の立案と推進	
③ 産業廃棄物の品別（原単位）指標の導入による削減推進と削減効果の明確化	
④ グリーン購入の積極的推進	
⑤ ゼロエミッションの推進	
2. 継続的管理目標	
① 公害・苦情の発生	0件
② 省エネルギーの推進	原単位比で対前年 1%改善
③ 産業廃棄物削減（添加剤工程）	原単位比で対前期 2%改善
④ グリーン調達の推進	80%達成
⑤ ゼロエミッションの推進	最終埋め立て比率を0.5%未満に削減

## 3. 環境マネジメントシステムの状況

### (1) 環境管理推進組織

三重工場では、早くから環境管理に取り組み、1996年には国際規格 ISO 14001 の認証を取得し、環境マネジメントシステムを導入しています。（現在は ISO14001：2004 年度版）

このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しています。

## (2) 環境教育

組織のために働く全ての人々に対して、環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図ります。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるための教育訓練計画を全ての部署で作成し、それに則り教育訓練を行っています。また、公的資格の取得にも努め、多数の資格を取得しています。資格者一覧を次に示しました。

表-1 主たる資格の取得者一覧表 2014年8月末現在

該当法規制	資格名称	必要者数	取得者数
大気汚染防止法	公害防止管理者 大気1種、2種	2名	7名
水質汚濁防止法	公害防止管理者 水質1種、2種	2名	12名
廃棄物処理法	産業廃棄物焼却施設技術管理士	1名	1名
"	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1名	1名
"	特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	1名	4名
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者技能講習修了者	27名	138名
"	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者	27名	123名
"	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	29名	134名
"	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	13名	86名
"	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	9名	52名
"	フォークリフト免許取得者	86名	168名
"	クレーン運転業務特別教育修了者	21名	109名
"	1級ボイラー技士	4名	11名
"	2級ボイラー技士	4名	14名
"	ボイラー整備士	0名	6名
"	第1種 衛生管理者	1名	2名
消防法	危険物取扱者甲種	0名	32名
"	危険物取扱者乙種4類	28名	127名
"	危険物取扱者乙種4類以外	7名	52名
省エネ法	エネルギー管理士	1名	3名
高圧ガス保安法	高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	1名	1名
"	高圧ガス製造保安責任者（乙種化学、丙種化学）	4名	18名
計量法	計量証明事業試験	1名	4名
電気事業法	第2種 電気主任技術者	1名	1名
"	第3種 電気主任技術者	0名	1名
"	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育	1名	1名

## (3) 環境会計

2013年度の設備投資は、2012年度に対し14.1%減少しました。内、環境設備投資額の占める割合は2012年度比で12.0%増加しました。又、原材料削減効果は前年度に比べ少なくはなっているものの、収率向上等の生産性向上により、着実に効果を出しています。省エネルギー効果は、管理強化と省エネ設備導入の相乗効果により、2012年度比で291%の改善となりました。

表-2 環境会計 単位 千円

	2012年度	2013年度
期間中の総設備投資額	898,715	771,850
期間中の環境設備投資額	115,134	13,823
期間中の省エネルギー効果	4,909	19,209
期間中の原材料削減効果	26,495	14,009

## (4) グリーン購入

三重工場で使用する事務用品については、その内容(品目)を精査し、文具類では264品目に減少(▲19.5%)、文具以外の事務用品については81品目に減少(▲27.0%)することが出来ました。積極的にエコ商品を採用することにより、グリーン購入比率は、文具類では81.1%、文具類以外では97.5%、全体では84.9%と、目標の80%を過達することが出来ました。

表-3 グリーン購入比率

文具類	2012年度	2013年度	文具類以外	2012年度	2013年度
① 購入品目数	328	264	④ 購入品目数	111	81
② エコ商品購入数	277	214	⑤ エコ商品購入数	103	79
③ 購入比率 (%)	84.5	<b>81.1</b>	⑥ 購入比率 (%)	92.8	<b>97.5</b>

#### 4. 環境パフォーマンス（環境保全への取り組みと改善状況）

表-4 インプットとアウトプットのまとめ

INPUT			
<b>【エネルギー】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	電力(原油換算量) (kℓ)	<b>3,754</b>	<b>+1.5</b>
	蒸気(原油換算量) (kℓ)	<b>3,317</b>	<b>+12.9</b>
	廃油焼却(原油換算量) (kℓ)	<b>866</b>	<b>▲10.4</b>
<b>【水】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	地下水汲み上げ量 (千 t)	<b>1,678</b>	<b>+20.1</b>
OUTPUT			
<b>【大気】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	CO <sub>2</sub> 発生量 (t)	<b>20,001</b>	<b>+1.9</b>
	NO <sub>x</sub> 排出量 (t)	<b>16.0</b>	<b>▲11.1</b>
	NO <sub>x</sub> 排出濃度 (ppm)	<b>75</b>	<b>▲20.2</b>
<b>【化学物質】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	PRTR物質取扱量 (t)	<b>3,225</b>	<b>▲4.5</b>
	PRTR物質排出量 (t)	<b>0.385</b>	<b>▲16.5</b>
	廃棄物としての移動量 (t)	<b>31.2</b>	<b>▲15.5</b>
<b>【水域】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	COD発生量 (t)	<b>2.4</b>	<b>+4.3</b>
	BOD発生量 (t)	<b>1.3</b>	<b>±0</b>
	水の排水量 (千 t)	<b>815</b>	<b>▲0.5</b>
<b>【製品】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	製品生産量 (t)	<b>13,985</b>	<b>+9.9</b>
	全生産量(中間体含む) (t)	<b>23,305</b>	<b>+5.9</b>
<b>【廃棄物】</b> 	項目	2013年度実績	対前年比(%)
	廃棄物発生総量 (t)	<b>10,455</b>	<b>▲7.9</b>
	外部委託量 (t)	<b>4,279</b>	<b>+8.8</b>
	最終埋め立て量 (t)	<b>19</b>	<b>▲5.0</b>
	ゼロエミ比率 (%)	<b>0.18</b>	<b>±0</b>

## (1) 生産量の推移

2013年度はアベノミクス効果もあり、国内外共に出荷量が増加、三重工場における生産量は増加しました。中間体を含む総生産量は23,305tと対前年比+9.9%、又、製品自体の生産量も13,985tと対前年比+5.9%となりました。

三重工場では、汎用製品のグローバル展開を進める一方で、複雑な中間体生産工程を経る高機能製品、新規製品の生産量が増加しています。

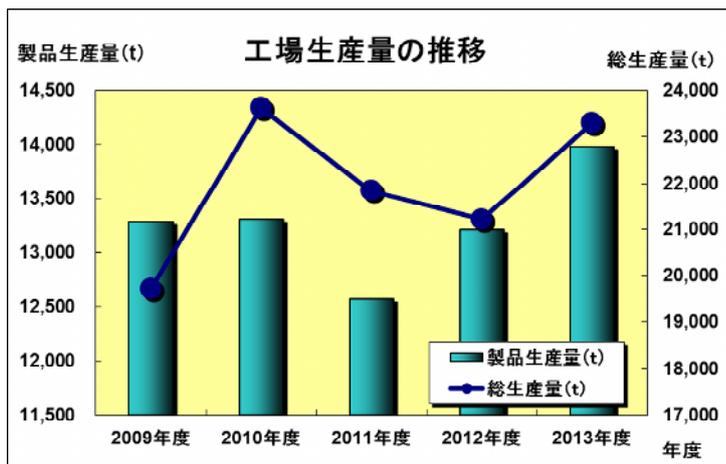


図-1 工場生産量の推移

## (2) 環境負荷のインプットの低減

### 1) エネルギー使用量

三重工場で使用するエネルギーは、原材料の加熱用蒸気を発生させるために使用する都市ガスと、動力・照明に使用する電力に分けられます。

2013年度については、生産量増加に伴うエネルギー使用量が増加しました。一方、廃油焼却施設の付帯設備のトラブルに伴い、排熱ボイラーから得られる蒸気が減少しました。結果として、製品1t当りのエネルギー使用量(原単位)は0.546kℓ/tとなり、前年比+1.1%の悪化となりました。設備保全の向上、更に、省エネ機器の導入、生産効率を高める工程改善を進め、エネルギー効率を高める努力を進めてまいります。

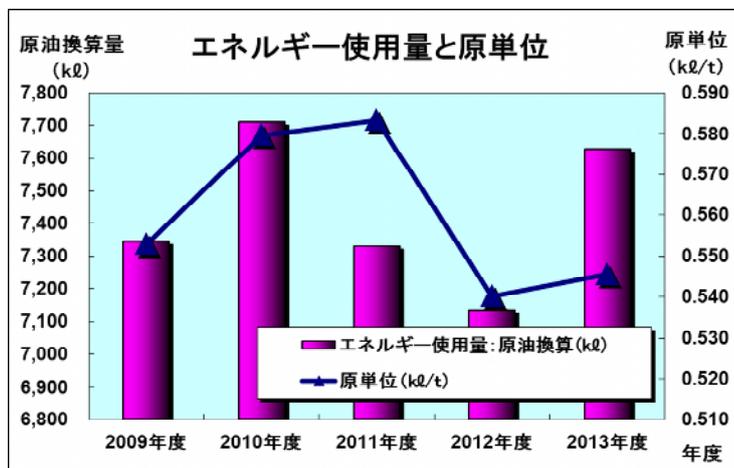


図-2 エネルギー使用量と原単位

### 2) 地下水使用量

三重工場では飲料水を含め、構内で使用する水は全て地下水の汲み上げにより賅っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されています。その一部は、地下水を有効に利用するため、冷却塔で冷却し、再利用を図っています。

2013年の地下水汲み上げ量は、生産量の増加(特に水を多く使用する中間体の生産)に伴い、2012年度比で+20.1%となりました。原単位では生産量増加に伴う生産効率の向上により、2012年度比+13.5%となりました。

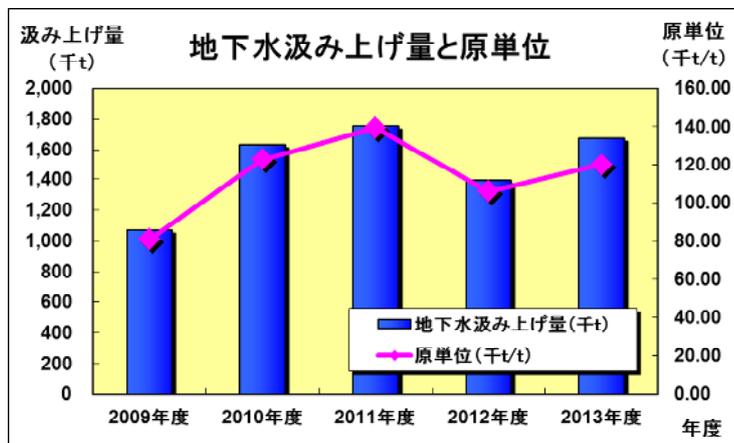


図-3 地下水汲み上げ量と原単位

### (3) 環境負荷アウトプットの低減

#### 1) 大気への排出量

##### ① CO<sub>2</sub>発生量

三重工場では前述のように、生産活動に多くのエネルギーを使用しており、生産活動に伴ってCO<sub>2</sub>が発生します。CO<sub>2</sub>の発生量は購入電力を含んだエネルギーの使用量に比例しています。

2013年度は2012年度に比べ、CO<sub>2</sub>の発生量は+2.0%の増加となりましたが、原単位では製品生産量の増加、省エネ・工程改善への取組みと合間って、▲3.6%の改善となりました。

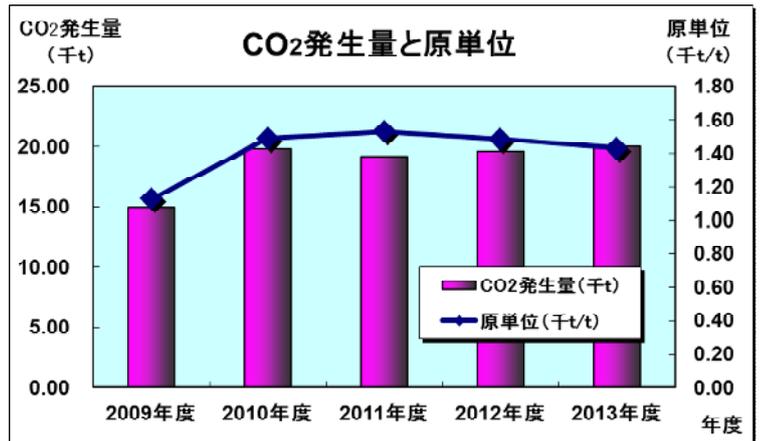


図-4 CO<sub>2</sub>発生量と原単位

##### ② NO<sub>x</sub>排出量

三重工場ではプロセスの熱源として蒸気を必要とするため、ボイラーを設置しています。2004年度以降はボイラーの燃料転換(重油⇒LNG)により、SO<sub>x</sub>の排出はなくなり、NO<sub>x</sub>の排出量総量もそれ以前と比較して減少、全ての対象設備・機器の排出濃度の実測値は規制値の150ppmを十分に下回っています。2013年度は、廃油焼却炉の稼働が減少したことにより、排出量も減少しています。

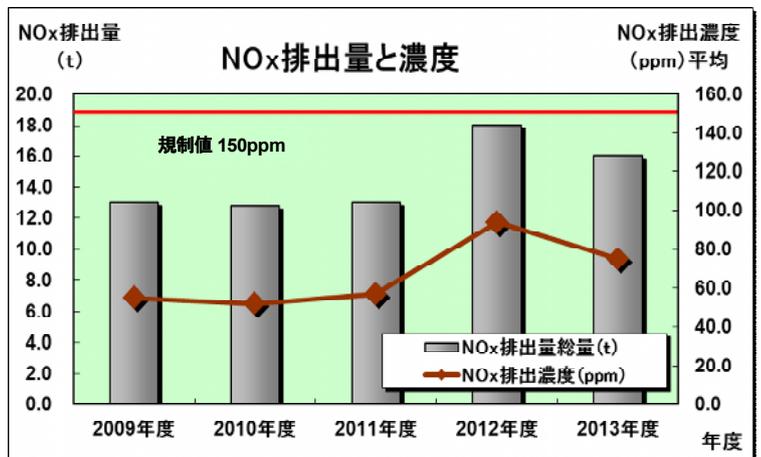


図-5 NO<sub>x</sub>排出量と濃度

#### 2) 有害化学物質の排出・移動

三重工場では原料として多くの化学物質を使用しています。

人体・地球環境に影響を及ぼす懸念のある化学物質については、取扱量、排出量、移動量の削減に努力しています。

製品の多様化により、原料の種類も増加しており、国の定めるPRTR法の対象となる第一種指定化学物質の内、年間取扱量が1tを越える品目の数は2013年度では33物質となりました。その取扱量は3,225t(2012年度比▲4.5%減)、排出量0.385t(2012年度比▲16.7%減)、移動量31t(2012年度比▲15.5%減)となりました。

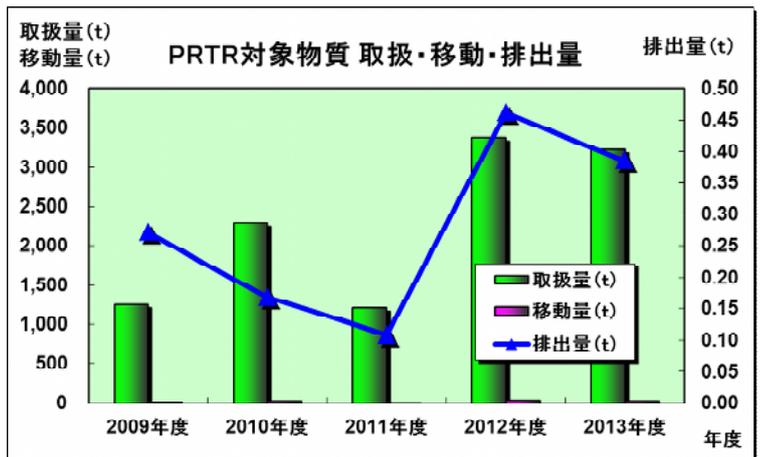


図-6 PRTR対象物質 取扱・移動・排出量

#### 3) 水域への排出量と推移

三重工場の製造工程からは1日に約300tの廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、雨水・冷却水を除いて全量を公共下水に流しています。工場廃水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。

#### 4) 産業廃棄物

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。三重工場では事業のグローバル展開と共に、高機能製品に的を絞った廃棄物削減活動を展開しております。2013年度は2012年度に比べ、廃棄物発生量は▲7.9%減少しました。一方、産業廃棄物処理業者への委託（処理）量については、廃油焼却炉の稼働率低下により、+7.19%と増加する結果となりました。今後も工程改善による産業廃棄物発生量の削減を図ると共に、産業廃棄物の内、利用できるものは再利用し、資源の有効利用に努めていきます。

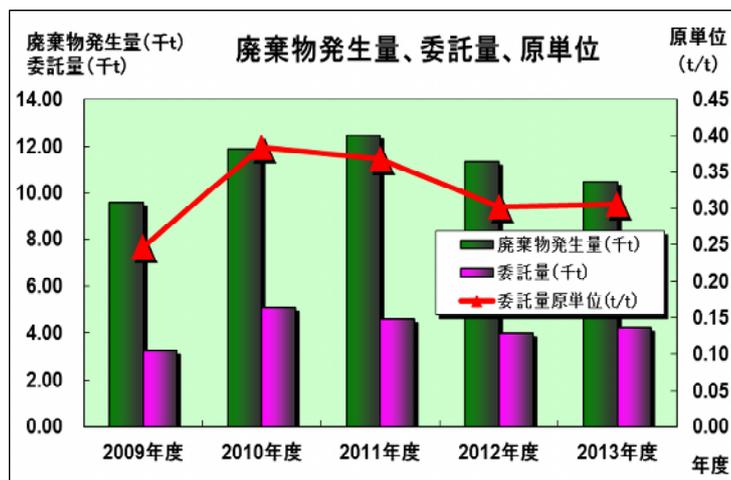


図-7 廃棄物発生量と原単位

表-5は各工程で発生した廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。三重工場では産業廃棄物中間処理施設（廃油焼却炉）の排熱を利用し蒸気を発生しています。2013年度は廃油焼却の付帯設備のトラブルによる稼働停止が影響し、熱回収率が18.7%に減少する結果となりました。

表-5 産廃炉の蒸気発生量と熱回収率

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
リサイクル蒸気発生量 (t)	10,974	14,239	17,295	15,930	11,905
蒸気総使用量 (t)	56,305	64,214	64,939	62,429	63,584
熱回収率 (%)	19.5	22.2	26.6	25.5	18.7

産業廃棄物のゼロエミッションに向けた取り組みは、ADEKA 全社として 2013 年度の廃棄物総発生量を減少させ、最終埋め立て量を廃棄物発生総量の 0.5%未満にすべく、最終埋め立て量の削減を進めてまいりました。三重工場における 2013 年度の総発生量は減少したものの、外部委託量は増加、最終埋め立て量の廃棄物発生総量に対する比率（ゼロエミ比率）は 0.18%となりました。

#### (4) 環境事故の発生状況

2013年度は残念ながら1件の排水事故（冷却塔の防汚剤の若干量の流出）を発生させ、近隣住民の方々をはじめご迷惑とご心配をお掛けする結果となりました。事態を真摯に受け止め、再発防止に万全を期してまいります。

## 5. 安全衛生活動

### (1) 労働安全衛生方針

**三重工場労働安全衛生方針**

**<理念>**  
株式会社 ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。

**<方針>**

- 法規制の遵守  
労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。
- 安全・健康の確保  
取り扱い物質および設備の性質を把握し、取り扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。
- 労働安全衛生意識の高揚  
教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。
- 対外連携の促進  
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2014年4月1日  
株式会社 ADEKA 三重工場長 **山田芳雄**

### (2) 労働安全衛生活動目標

2013年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

**目標**

1. 労働安全・保安防災の先取管理の強化

- ① 重点作業について、リスクアセスメントの強化（見直し）と階層に従った対策の実行
- ② 試作・試行時の事前安全性評価の確実な実施
- ③ 若年層（5年以内の異動者含む）への安全教育の徹底
- ④ 工場内ルールの遵守とKY（危険予知）活動の推進による労働災害の発生防止
- ⑤ 保安体制の再構築

2. 継続的管理目標（年間）

① ヒヤリハット報告	1,000件以上	【2013年度実績：1,198件】
② STOP-MIE	280件以上	【2013年度実績：442件】
③ 危険予知	5,000件以上	【2013年度実績：6,529件】
④ 安全提案・改善	720件以上	【2013年度実績：1,089件】
⑤ 安全ワンポイント	380件以上	【2013年度実績：573件】

### (3) 安全衛生教育

労働安全衛生マネジメントシステムでは、工場の全部門の役割、責任、権限を遂行するために、全ての従業員に労働安全衛生マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図り、必要な資格等の取得を進めています。その方策として、各部署で教育・訓練計画を作成し、それに則り教育・訓練を行っています。

### (4) 安全衛生活動の成果

#### 1) 2013年度の安全活動【月別安全キャンペーン】

三重工場では従来からヒヤリハット活動、STOP-MIE活動などの展開により、災害発生防止に努めてきま

した。2013年度の取組みにおいても、月別安全キャンペーンの実施し、日常の生産活動における安全意識を高めてきました。更に、基本の安全教育を徹底し、再発防止に取り組んでいます。

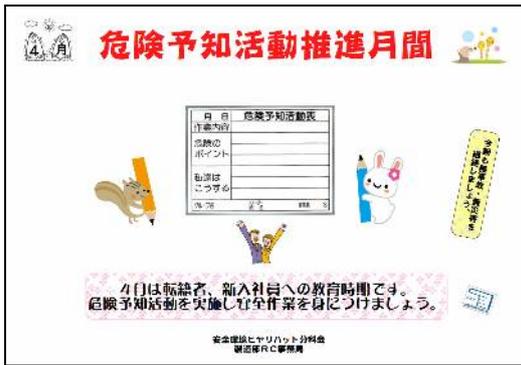


図-8 安全キャンペーン (2013年4月)



図-9 安全キャンペーン (2013年8月)

## 2) 安全成績

2013年度は災害ゼロの目標に対し、休業災害は0件でしたが、不休災害・微傷災害が合計で3件発生し、ゼロ災は未達成となりました。この災害はいずれも工程運転中の重大な災害ではなく、軽微なものでした。

近年の傾向として、事前の危険予知が不十分であったためとされる災害が多く発生しています。この点を踏まえ、再発防止と情報の横展開に万全を期して、安全活動を展開しています。

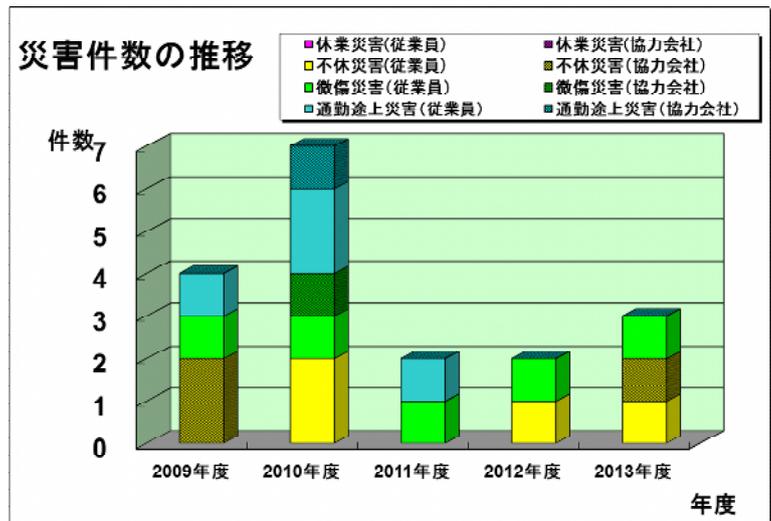


図-10 災害件数の推移

## (5) 保安活動

### 【緊急事態への対応】

地震などの天災による、不慮の事故の発生に対して、企業は緊急時の対応手段を明確にしておかなければなりません。三重工場も当然のことながら、緊急時の対応について、基準・標準等に規定して対策をしています。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。更に、発生部署での初期緊急対応の体制と、工場全体での緊急時のために組織された自衛消防隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対応と自衛消防隊の要員は消防操法・救急救命等、十分に訓練され経験のある従業員で構成されています。2013年度は8月9日に地震発生に伴う火災発生を想定した緊急対応訓練、避難訓練、初期消火訓練、桑名消防署いなべ方面隊のご協力の基に自衛消防隊の訓練を実施しました。



南海トラフ巨大地震に対する危惧が高まる中、三重工場におきましても防災対策を進めています。具体的にはBCP(事業継続計画)構築の中で、地震による危険箇所の特定と事前対策の構築、防災備品の配備、防災組織・機能の見直し、復旧計画の構築等の備えを進めています。



非常用ディーゼル発電機



防災備品倉庫



インマルサット衛星電話

2013年4月にその運用を開始した巨大地震を想定したBCP（事業継続計画）については、適宜その内容を見直し、危機管理強化を図っています。



## 6. 物流環境安全活動

生産活動での環境・安全活動と同様に物流部門でも環境・安全活動に取り組んでいます。運送会社の協力を得てアイドリングストップ活動に取り組み、環境保全に努めています。

株式会社 ADEKA 工場の製品の一部は消防法の危険物に当ることから、万が一の輸送中の事故に備え携行しているイエローカードに基づく通報訓練を定期的に工場と運送会社が連携して行っています。

又、製品を安全にお客様の元へお届けするには、交通事故の防止にも努めることも重要で、運送会社単位で自動車事故対策センターの適性診断を受けるなど、交通事故防止にも取り組んでいます。

**アイドリング  
STOP!**

環境保全活動を実施しています。  
次の事項を守って、環境保全活動にご協力をお願いします。

- ◎入門手続き後は、速やかに荷降ろし場所へ移動願います。
- ◎移動の際は、空みかし・急発進・急ブレーキを避けて下さい。
- ◎荷降ろし場所へ着いたら速やかにエンジンを停止願います。
- ◎構内速度 20 キロ以下で走行してください。

**ADEKA** 株式会社 ADEKA

三重工場 製造管理課  
ADEKA 物流株式会社

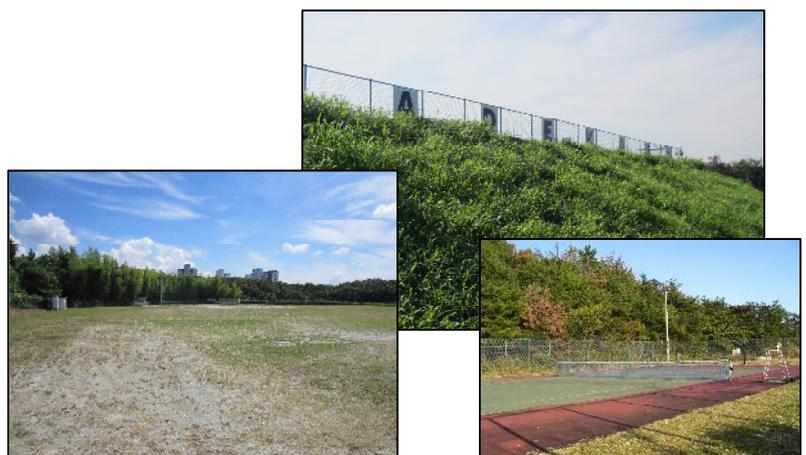
## 7. 社会貢献活動

### (1) 地域とのコミュニケーション

#### 1) 施設の開放

私たちは、地域との関わりを大切にしています。三重工場の野球場及びテニスコートを地域に開放しております。

野球場は地元のスポーツ少年団のチームの育成などに活用して頂いています。



## 2) 東員町商工祭

2013年10月13日、地域産業の発展の一助となるべく、地域の商工会活動などにも積極的に参加致しました。



## 3) 東員町小学生・中学生勤労体験学習

2013年度は地元3校の小中学校の要請により、勤労体験学習の受入を行いました。

更に高校(1校)からのインターンシップの受入も行いました。



## 4) 地域ボランティア

株式会社 ADEKA 三重工場では、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二箇所、小中学校の児童・生徒に対して交通指導を実施しています。



## (2) 清掃活動

### 1) 工場周辺の一斉清掃

工場周辺の美化活動(清掃)については、その頻度を見直しました。2013年6月より毎月1回実施しています。



### 2) 東員町クリーンアップ作戦参加

2013年12月1日、地元の東員町を流れる員弁川河川周辺に不法投棄されたゴミの撤去・回収に参加しました。



この環境・安全レポートに関する質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成 株式会社A D E K A 三重工場 環境・安全管理委員会事務局  
確認 株式会社A D E K A 三重工場 環境・安全管理責任者 江上富夫  
窓口 株式会社A D E K A 三重工場業務部業務課長 伊藤博也  
住所 〒511-0251 三重県員弁郡東員町山田 3707 番地の 1

TEL 0594-76-2330(代) FAX 0594-76-3011

株式会社  三重工場 業務部 業務課 TEL 0594-76-2330 FAX 0594-76-3011

## ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでおります。  
今回、2014年版の環境・安全レポートを発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるかと思えます。  
皆様より頂いたご意見、感想を参考とさせて頂き、より良い活動を進めたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

株式会社 **ADEKA** 三重工場  
環境・安全管理委員会事務局  
FAX 0594-76-3011

1. この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。  
a. 物足りない    b. 普通    c. 充実している    d. その他(                    )
2. この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。  
a. 理解できない    b. 普通    c. よく理解できた    d. その他(                    )
3. ご意見、ご感想をお願いします。

※ お名前、ご住所等は個人情報となりますので、記入は任意です。

ご勤務先 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

連絡先ご住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ FAX 番号 \_\_\_\_\_